

科目	心理学研究法Ⅰ（心）	単位数	2
担当教員	亀島 信也		
履修対象	心理科学科1年秋学期		
概要と目的	実験と観察の方法、質的・量的データとその収集方法など、心理学研究に必要な知識を修得する。		
達成目標	<p>「知識・技能」</p> <p>(1) 心理学を研究する方法や手順などを正確に説明できる。</p> <p>(2) 実験や観察の方法、ならびに、質的研究や量的研究を正確に理解し比較ができる。</p> <p>(3) 卒業論文作成に必須な、研究デザインの仕方について基礎的技能を持つ。</p> <p>「思考力・判断力・表現力」</p> <p>(1) 心理学文献などで取りあげられた研究方法について、生産的に批判できる。</p> <p>(2) 論理的な思考と魅力的な研究デザインによる効果的な表現能力を獲得する。</p> <p>「主体性・多様性・協働性」</p> <p>(1) 心理学研究法の面白さから主体的に学習する意欲が高まる。</p>		
授業計画			
1	講義予定と講義内容、成績評価、注意事項などを説明する。		
2	心理学における実証的研究法1 心理学における研究倫理や倫理指針について理解する。		
3	心理学における実証的研究法2 心理学研究法における基礎を概観する。		
4	心理学における実証的研究法3 心理学実験法と調査研究の違いを知る。		
5	心理学における実証的研究法4 心理学研究で用いられるさまざまな研究デザインを把握する。		
6	心理学における実証的研究法5 観察法と面接法の特徴をとらえる。		
7	心理学における実証的研究法6 臨床現場でみられる事例研究を理解する。		
8	心理学における実証的研究法7 量的研究と質的研究の活用について検討する。		
9	心理学で用いられる統計手法 平均値の比較のための検定や分散分析を学習する。		
10	統計に関する基礎知識1 ステークスの4つの尺度水準についての理解を深める。		
11	統計に関する基礎知識2 代表値、分布図、標準偏差と分布の基礎を学習する。		
12	統計に関する基礎知識3 量的や質的、独立や従属という変数の種類の理解や相関係数を学習する。		
13	統計に関する基礎知識4 パラメトリックとノンパラメトリック検定を区別する。		
14	統計に関する基礎知識5 帰無仮説を理解し統計的仮説検定法を習得する。		
15	今学期の心理学研究法のまとめをし、卒業論文でも使える研究レポートの書き方を習得する。		
授業形態／具体的な内容	講義		
教科書			
教科書名	著者名	出版社	金額
心理学研究法入門 心理学エレメンタルズ	アン・サール著 宮本聡介訳 渡辺真由美訳	新曜社	2200円
参考書			
成績評価の基準・方法	<p>基準</p> <p>心理学を研究する方法や手順を理解できれば合格とする。</p> <p>方法</p> <p>単位認定に関しては、定期試験で判断する。</p> <p>定期試験については、担当教員による講義の理解を問う（80%）。</p> <p>講義中や補講期間中に小テストを行うこともあるので注意すること。</p> <p>事前に講義ノートを入手することや、質問などによるクラス参加度を評価する（20%）。</p>		
留意点			
準備学習	<p>開講初日に詳細なシラバスを配布するので、それに基づき週に2時間程度の準備学習を期待する。</p> <p>各回の講義前にシラバスに掲載している教科書の部分を熟読してくこと（1時間程度）。</p> <p>各回の講義後に教科書にある課題（練習問題）をこなし復習しておくこと（1時間程度）。</p>		
備考		No.	PY621001